

激戦制し、市長に新人・小菅淳一氏 市議補選は山本のぶこ候補が大健闘

注目の上越市長選、市議補選は10月26日、投開票が行われました。この結果、市長選では新人の小菅淳一氏（イラスト右下）が激戦を制し、当選しました。市議補選では元職の宮川大樹氏、中土井薫氏、新人の渡辺希氏が議席を獲得しました。

日本共産党の山本のぶこ氏は前回当選した上野、平良木、橋爪の市議選得票合計を大きく上回る1万1501票を獲得したものの、4位にとどまりました。

日本共産党は今度の選挙戦で、市長選については原発再稼働問題、医療再編、行財政改革などの重要公約で考え方が一致できる候補はいないとして自主投票という方針でのぞみました。当選した小菅新市長については、是々非々の態度で対応していくことになります。

市議補欠選挙（欠員3、立候補5人）では、久しぶりに女性候補を立て、政策では、物価高騰

対策を強める、柏崎刈羽原発の再稼働を認めない、国県主導の病院再編は許さないなどの公約を掲げ奮闘しましたが及びませんでした。しかし山本のぶこ氏の得票（11,501票・得票率14.2%）は、今年の参院選挙比例得票の2.7倍、昨年の衆院選挙比例の3.5倍になり、大健闘という結果をつくりだしました。



市議補選で当選した宮川、中土井、渡辺の3議員は当選した翌々日の10月28日、月例議員懇談会でそれぞれ、「よろしくお願いします」などと挨拶。議員勉強会にも参加しました。



田んぼの中で仲良く歩く吉川の巣の親鳥ペアです。27日、大潟区にて撮影しました。

【ゲンノショウコ】
（再掲）フウロソウ科の多年草。漢字で「現証拠」と書きます。花は梅に似ていて、かわいい感じですが、私の場合は、子どものころから、ゲンノショウコ＝薬草でした。センブリと並んで愛用されていましたね。花期は7月から10月。花言葉は「あなたを救う」など。写真は先月23日、大島区熊田にて撮影しました。

尾神岳スカイグランプリ2025

新潟県知事杯尾神岳スカイグランプリ2025の開会式が25日にあり、参加してきました。会場はパノラマハウスのそばのパラの出発地点でした。会場では長野県からの選手の一部がリングを差し入れてくださり、美味しくいただきました。

今回の大会には北は秋田県、南は高知県からベテラン選手が集まり、全体で59人がエントリーしての競技となりました。天気はいまいちでしたが、初日に競技が行われました。良かったです。

はしづめ法一の
活動レポート

No.2226 2025.11.2

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八七三回 うれしい出来事

「生協の人、お母さんがあんたに世話になったと言ってたよ」と連れ合いが教えてくれたので、一瞬、誰かと思いました。つい、先日の方のことです。

誰であるかは、じきにわかりました。その人のお母さんは和服を着て歌を歌う人だということも聞いたからです。「それなら久代さんの息子さんだ」と直感しました。

その日の夜、私は横住在任の久代さんの妹さんのところに電話し、生協に勤めているであろう息子さんの携帯電話の番号を聞き、すぐにかけてみました。間違いありませんでした。連れ合いと話した人は久代さんの息子さんのKさんだったのです。

電話に出たKさんは、私から電話がいくとは思ってなかったようです。「橋爪です」と言う、「光栄です」と言い、「母が亡くなってすぐに駆けつけてくださったので有難かったです」と続けました。

Kさんは私と久代さんとのつながりを前から知っていたわけではありません。久代さんが亡くなったあと、毎週一回は留守家になったKさんの実家に通い、整理、片付けをするなかで、私のことを知ってくださったようです。「橋爪さんの本やイラストがたくさん出てきたんです。故人が大事にしたいと思っていたものに違いないと思いました」と言われました。

Kさんは、いつか私に会って話をしたい、そう思いながら生協の配達の仕事をしてきたことでした。Kさんは先日、配達先の一軒が私のところであることに気づいたと言います。残念ながら、配達当日は私はいませんでした。それで思いの一端を連れ合いに伝えたこともわかりました。

そこまで語ってもらったところで、私と久代さんとのつながりを七五年前までさかのぼって話しました。

私が生まれたところは旧東頸城郡旭村の竹平の「のうの」(屋号)です。一九五〇

年三月のことでした。母の初出産にあたっては、竹平の内山医院の内山医師とそこで看護師兼助産師をしていたフミ子さんが助けてくださいました。お二人は、体温が下がり、危ない状態だった私の命を守ってくださったのです。フミ子さんが助産師の資格を取り、初めて出産の手助けをした時の赤ちゃんが私でした。

フミ子さんと久代さんの母親は藤尾出身の姉妹です。久代さんは同じ旭村で、私も数か月早く生まれましたが、それから数十年間、付き合いはまったくありませんでした。ところが、私がこの「春よ来い」シリーズで、私の誕生時のエピソードを書いたところから、急速に親しくなりました。

以来、久代さんは私の後援会主催の「新春の集い」に毎回のよう仲間を誘って参加し、歌や踊り、マジックなどを披露して盛り上げてくださいました。久代さんが私に世話になったところか、私の方こそたいへんお世話になりました。

電話を終えて電話記録を見たら、Kさんとの電話は一八時四九分からはじまり、一九時一〇分まで二十一分にも及びました。でも長電話という思いはまったくなく、むしろまだ語りつくせていない感じです。

久代さんは今年の二月十二日、突然病気をし、亡くなりました。昨年十二月、ほくほく線うらがわら駅構内で行われたイベントで一緒に一緒に『コウノトリさん、ありがとね』の歌を歌いました。それが一緒に行動したイベントの最後となりました。

葬儀後、三人の子どもさんのうち一人とある葬儀場で少し話しました。息子さんとは今回が初めてです。電話でのKさんは、母親譲りの明るく社交的な人といった印象でした。今度会う時は、たっぷり語り合いたいと思います。久代さん、息子さんと話できましたよ。ありがとね。

頸北カレッジでコウノトリの報告

頸城希望館で10月17日、学習活動を進めている頸北カレッジが行われました。そこでコウノトリについて観察報告を頼まれていて、約40分におたり話をしました。

私からは、コウノトリはどんな鳥か、いまどうしているか、コウノトリから学んだことなどを中心に話をさせてもらいました。

参加者は約40人。コウノトリが1日に300キロも飛ぶことや肉食の鳥であり、大きなカエルやザリガニなどを食べることにびっくりしていました。

1週間ほど前の退職校長会での報告では、コウノトリの巣に屋根がないことなどに質問が出ていたので、そういう基本的なことの報告に時間を割きました。

報告後(会が終わってからも含め)、「コウノトリは巣立ち後、親

子がどうなるのか」「どこに寝泊まりしているのか」などの質問が出ました。

聴衆のほとんどは女性で、吉川区在住の人たち以外は初めて見る人が多かったです。緊張しましたね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	10月22日(水)	10月29日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.050	0.057
頸南消防署	0.067	0.067
東頸消防署	0.046	0.057
名立分遣所	0.063	0.057
高士分遣所	0.053	0.057